

# NATO がユーゴスラビアに大量の劣化ウランを落とした ——毒物学者

Sputnik International

March 28, 2023

劣化ウラン (DU) 爆薬が、最近、ロンドンがこれをキエフに送り、現在進行中のウクライナ紛争で使うつもりであると発表して以来、ホットな話題となっている。これらの弾薬の副産物のもたらす健康への被害についての懸念が、1990年代のいくつかの紛争で NATO 軍が、劣化ウラン炸裂弾を使ったことによって、かつて問題を引き起こしてきた。たとえば 1991 年の湾岸戦争、ボスニアとヘルツェゴヴィナの戦争、それに 1999 年のユーゴスラビアへの攻撃である。

毒物学者で、ベオグラードの放射性物質防護センターの前所長 Radomir Kovacevic 博士は、スプートニクに応じ、この問題に関しては、4つの報告が、「国連環境計画」を含めて、異なった専門家グループから発表されているが、これらの報告の1つだけが——セルビアの専門家の入った4番目のもの——正確なデータを含んでいたと話した。

「この報告は、そこに何が見つかったかを正確に示すものだった。空気中に見つかったウラニウムもその1つであり、プルトニウムの存在も確認された」と、コヴァチェヴィッチは言った。「彼らは、3万1,000発のミサイルが落とされたことを認めねばならなかった。これは約4トンに当たる。我々セルビアの軍隊は、4万5,000から5万1,000発だったと主張した。それは15トンになる。ロシアのソースは、ミサイルは約9万発で、約30トンの劣化ウランが使用されたことになる、と言っている。」

彼はまた、セルビアの劣化ウラン汚染地域でインタビューした人々について、ゾッとするような詳細を教えてくれた。

「私は Borovac 村の錠前職人だった、ある男のことを覚えているが、彼は尿1リットルにつき、3,759 ナノグラムという高濃度を示した。これは3.7ミリグラムだ。この人はもうとうの昔に死んでいると思う。これが、我々が役人たちに見出したウラニウム濃度だ——みんな完全防備をしていたにもかかわらず。」

**卑劣なかなとこ：いかにアメリカの権力欲が、ユーゴスラビアを地獄の底に突き落としたか**（注：Ignoble Anvil は NATO の作戦名 Noble Anvil をもっている）

コヴァチェヴィッチはまた、Vranje 近くの村の人々は、毒性物質の平均濃度が、尿 1 リットルにつき 36 から 231 ナノグラムを示していたが、これはゼロであるべきものだった。また、この研究に関わった彼のチームの専門家の多くが癌で死んだと言った。

Vranje には「死の通り」が何本かあると言ってよいと、彼は言っている。

### 〔訳者 Greatchain 注〕

Sputnik International にも Sputnik 日本も、れいわ党の山本太郎議員が、このイギリスが劣化ウラン弾をウクライナに送ると言った問題について、岸田首相に質問したことを、首相の口ぶりを交えて、かなり詳しく伝えている。その意味はわかるような気がする。世界は驚いているのである。わが国は、首相を中心として、諸外国のように暴動が起きることもなく、政府もメディアも国民も、完全に一体となってやっているように見える。そこで、この首相批判とも思える質問が初めてなされたので、外国の人々は何事ぞと、聞き耳を立てたのではあるまいか？ これは我々日本人全体が、何をどう考えているのか見当のつかない、かなり不気味な、信用的できない者として、世界には映っている証拠と思われる。

まず首相は、ロシアの軍事侵攻が始まったとき、なぜとも問わず、やめよとも、やめてくれとも言わず、国際秩序を強調してロシアは許せぬと言ひ、諸外国に対して協力を呼び掛けた。これが違和感をもたらした。この確信はどこから来るのかと世界の人々は思ったであろう。首相の現在の発言力は確かに強い。しかしプーチンや Infowars が心配するような、根の深いものではないと思う。「ノルドストリーム」爆破についても、ただアメリカに従うというのは、何も自分では何も考えない証拠である。ゼレンスキー大統領についても、首相が真剣に考えているとも思えない。ゼレンスキーが野党を弾圧し、ウクライナ正教をも弾圧していること、ウクライナへの過激派の流入が盛んであることを、首相は知っているだろうか？

上記のユーゴスラビアの「劣化ウラン」記事で、恐ろしいのは、何より NATO であるが、よく読むと、国連がこれを支持あるいは無視していたのがわかる。そしてそれは、「ノルドストリーム」を取り上げよというロシアの要求を、今回もまた、国連が蹴ったことに現れている。前回から言っているように、我々が現在、良心的にも理屈としても、信ずることができるのはロシアだけだが、現実には、ロシアだけは信用ならないものに

なっている。すなわち、戦争犯罪はロシアだけが問われるもので、「西側」には存在しないことになっている。そしてこれを日本国民の大半が、信じて生きている。